

直売所向け花きの栽培技術

ゴデチャの栽培

春から初夏にかけ、花びらがサテンのようにヒラヒラした光沢のある花を咲かせます。別名のイロマツヨイの名の通り、ツキミソウに似た花の形をしています。株はこんもりとよく分枝し、上品な印象の透明感のある華やかな色の花を頂部に咲かせます。

水あげ、花持ちがよく、小さな蕾まで開花するので切花に適しています。



特徴

ゴデチャは北アメリカ西海岸原産の耐寒性または半耐寒性の秋まき 1 年草です。高さ 20~30 cm の矮性種は花壇や鉢植えとしてよく栽培されますが、高性種は高さが 50~80 cm で切花に利用できます。

花の咲く時期は 5 月~6 月。花期になると、分枝した茎の頂部に数輪の花がまとまって咲きます。ひとつひとつの花は短命ですが蕾が次々と開花し 2 週間ほど咲き続けます。

ゴデチャは丈夫で育てやすいのですが、日当たりが悪かったり、水分が多すぎると弱々しく育ってしまいます。

日当たりが良く、土質は特に選びませんが、粘土質の土にはやや不向きなので、水はけのよい砂質土の場所で栽培してください。

また連作を嫌うので、1~2 年開けて栽培するといいでしょう。

栽培管理

露地でも十分育ちますが、寒さの厳しい場所では、トンネルやパイプハウスなどを利用するといいでしょう。

・タネまき

タネまきの時期は、ススキの穂が始める 9 月下旬から 10 月上旬です。タネが細かく移植を嫌うので 200 穴のトレーにタネまき用培土を入れ、各穴にタネを 1 粒ずつまきます。大きめの 128 穴のトレーの場合 2 粒ずつまきます。まき終わったら、薄く土をかぶせたっぷりと水やりをします。発芽までは乾かさないように注意します。

・植え付け準備

酸性の土を嫌うので、植え付け前に苦土石灰などで中和しておきます。

多肥料では枝が繁茂してよい切花ができませんので、肥料（基肥）は控えめにします。

また、野菜の後作地などのよく肥えたところでは無肥料で栽培し、肥料切れの症状が見られたら、液体肥料か化成肥料をすこし施します。

・ 植え付け

タネまき後 30 日（10 月中旬～11 月上旬）本葉 4～5 枚ころに 15～20 cm 間隔で苗を植付けます。

茎が細く倒れやすいのでフラワーネットを張りますが、20 cm×20 cm マス目のフラワーネットを地面に敷いてマスごとに植え付け、茎が伸びるのにあわせてネットを上げていくとまっすぐな切花に仕上がります。

・ 摘心とわき芽の整理

草丈が 10 cm になるまでに主枝の芽を摘みとります。丈夫なわき芽を 4～5 本残し、その他のわき芽はかき取って整理します。

・ 水やり

土が乾いたらたっぷりと水やりします。特に、植えつけ直後と、開花中は水切れしないよう、表土が乾き始めたら水を与えます。

収穫

先端の花が 2～3 分先のころが収穫の適期となります。分枝部の茎部から採花し、下葉を取り除いて結束後 2 時間程度水揚げをします。

病害虫

過湿に弱く、うどんこ病や立枯れ病が発生しやすいので、栽培期間を通して乾かし気味に管理しましょう。

<うどんこ病>

うどん粉をまぶしたようになる症状が葉や花首に発生します。肥料が効きすぎていると発生しやすくなるので、適切な肥培管理を心がけてください。

<立枯病>

春に地際付近から腐って倒れることがあります。連作したり、土壌を過湿にしたりすると発生しやすくなります。発生したら抜き取って処分します。

<アブラムシ>

春に新芽や蕾に群がって汁を吸います。見つけしだい適用のある農薬を散布して駆除しましょう。

ゴデチャの栽培暦

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
移植栽培												
直播栽培												